

第3回アジア・オセアニア 会計基準設定主体グループ(AOSSG) 会議レポート

国際財務報告基準（IFRS）の適用の広がりや会計基準開発の一層のグローバル化を踏まえ、アジア・オセアニア地域における会計基準設定主体は、2009年11月にマレーシアで開催された第1回会議において、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）を設立しています。その後、第2回会議を2010年9月に東京で開催し、その後1年間、企業会計基準委員会（ASBJ）が議長としてAOSSGの活動をリードしてきましたが、2011年11月に第3回会議がオーストラリア（メルボルン）で開催されています。

本特集では、本会議の様様について、総論と各論のパートに分けて、ご紹介させていただきます。



1. AOSSG メルボルン会議における 直前議長の活動報告を終えて	27
ASBJ委員長	にしかわ いくお 西川 郁生
2. 第3回 AOSSG 会議の年次総会報告（総括）	29
ASBJ副委員長	かとう あつし 加藤 厚
3. 第3回 AOSSG 会議の年次総会報告（各論）	36
ASBJ専門研究員	せきぐち ともかず 関口 智和

AOSSG メルボルン会議 における直前議長の活動 報告を終えて

にしかわ いくお
ASBJ 委員長 西川 郁生



本特集においては、第3回アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ (AOSSG) メルボルン会議の全容が記されることとなるが、2011年11月23日会議の冒頭において、会議参加者への歓迎と直前議長としての簡単な報告の機会を得たので、ここでは、その模様と所感を記しておく。

1. 会議冒頭の状況

会議開催が宣言される前に、オーストラリア会計基準審議会 (AASB) のアンガス・トムソン氏から、私は、壇上で参加者への歓迎の辞を求められた。参加者を歓迎するメッセージに加え、会議欠席者等の欠席連絡をメンバーに紹介した。

その後、オーストラリア財務報告審議会の議長であるリン・ウッド女史から挨拶と開会宣言が行われた。AOSSG の MoU により、開会と同時に企業会計基準委員会 (ASBJ) が議長でなくなり、新議長は副議長であった AASB が務めることとなる。そこで、私はまず、AASB とその議長であるケビン・スティーブソン氏の AOSSG へのこれまでの貢献を披露した。AASB が副議長として電話会議等を通じ ASBJ に協力を惜しまなかったこと、AOSSG のウエ

ブサイトを立ち上げ管理してきた実績が既にあることなどである。その上で、AASB の議長就任を確認するとともに、スティーブソン氏への盛大な拍手を求めた。

引き続き、直前議長となった立場から1年余の活動報告を行った。活動報告は、別途書面での報告を資料に含めて出席者に配布してあったので、それを補足する形で謝辞を交えて述べた。言及したのは、ベトナムの加盟、国際会計基準審議会 (IASB) への技術的なコメントに関してワーキング・グループ (WG) リーダーが責任を持って役割を果たしたことへの感謝、議長諮問委員会 (CAC) が電話会議等を通じて IFRS 財団等に関するコメント等で役割を十



分に果たしたことへの感謝、Vision Paperの公表の意義と記載されたVisionを踏まえたこれからの活動に期待する旨などである。

最後に全メンバーに議長への協力を感謝して、報告を終えた。

席に戻るに際し、何人かのメンバーから任務を果たしたことへのCongratulationの声をかけていただいた。ASBJの役割が認められたものとして、改めて加藤副委員長、関口専門研究員を始めとするスタッフに感謝したい。

2. 所 感

実は、前日の22日にプロジェクト順にWGによるプレゼンテーションの機会があり、その後、メンバーによる若干の事前会議を行った。前日まではASBJが議長であるため、この会議の議長役を務めたが、翌日の会議運営に大きく2点の確認で重要な意味を持っていた。1つには今回、副議長の選出について以前と異なる事前プロセスを取っていたことである。従前は年次会議の中で副議長への立候補を求め、立候補の趣旨説明をし、メンバーが投票をするというプロセスを取っていたが、今回は事前に全メンバーによる電子投票を行うこととした。これは

MoUの範囲内で準備手続として行われたものであったため、電子投票によって絞り込みはされていたが、MoU上はそれを年次会議で選出することが想定されていた。事前投票はCACメンバー全員の了解のもとに全メンバーを巻き込んでいるので、プロセスの意味は理解されていると思っていたが、前日のところで十分理解されていることが確認されたことは当日の議事運営を円滑に進められる確信が得られたので、意義があった。

もう1点は、議長・副議長決定後にMoU改訂の議論が必要なことであった。旧MoUで選出されたオーストラリアと香港（共に選出段階では1年の任期が前提）が直後の新MoUによって2年の任期が付与されるという建付けである。両者の任期を単純に2年にするということで、これについても大きな問題がないことが前日段階で確認できた。直前議長として、新しい枠組みの下での新体制の御膳立てをつけられたことに満足している。

AASB スティーブソン氏は副議長時より、開発途上国への支援をAOSSGの重要な役割として位置付けており、所管下で行う2度目の会議をネパールで行うという案を示した。氏の思いが成果を上げるよう期待し、ASBJとしての支援を惜しまないつもりである。